

# 大西洋で新種10—20種発見

太陽の光が届かない深海にも、多様な生命の営みがある。光合成ができない暗黒の海で、生態系を支えているのは動物プランクトンだ。どんなプランクトンが、どのような暮らしをしているのか。その全貌を探ろうという国際共同プロジェクト「全海洋動物プランクトンセンサス」が始動し、今年4月に行われた大西洋での調査航海で500種の動物プランクトンを探取した。この中から10—20種の新種が確認される見通しという。国際プロジェクトと、深海に生きる動物プランクトンの世界の一端を紹介しよう。

(溝上健良)

## 今回のプランクトン採取海域



コアイイクラゲ属のクラゲ。流し網のように触手を張り巡らせて、他の動物プランクトンや魚などを待ち伏せしている

写真提供  
 ①②L.メイディン氏、ウッズホール海洋研究所  
 ③④⑤R.ホブクロフト氏、アラスカ大学  
 ⑥C.deヴァルガス氏、ロスコフ海洋研究所

「プランクトン」は日本語で「浮遊生物」と訳される。一般的にはミジンコのような小さな生物を想像しがちだが、大きさに関する定義はなく、直径1μm以上に達するエチゼンクラゲもプランクトンとみなされる。

## 「深海の宝石、動物プランクトン」

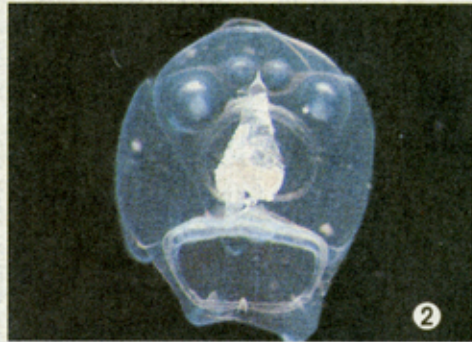
プランクトンを採取した。深海は生物の密度が低いので、開口部が10平方メートルもある巨大なネットを使った。食物連鎖は有機物の生産者である植物に支えられるが、太陽光が届かないこの深さでは、植物プランクトンは生存できない。海面近くまで浮上するわけにもいかない深海で、動物プランクトンはどうやって栄養分を得ているのだろう。

東京大学海洋研究所の西田周平教授は「彼らの戦略には2つある。ひとつはマリンスノーという上から降ってくるプランクトンの死骸などを捕食するもの。もうひとつは他の生物を食べるもので、餌の少ない深海では余り動かさず待ち伏せしたり、発光器でおびき寄せて捉える種もある」と説明する。

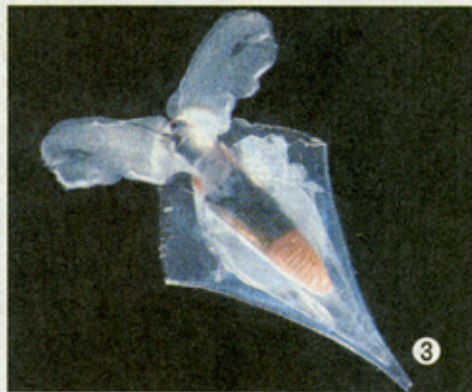
動物プランクトンと一口やクジラの餌となつて海の中にいっても、クラゲ類、貝の仲間、甲殻類の幼生など多くの生物種があり、姿かたちは実に多彩だ。既知の多細胞動物プランクトンは7000種程度だが、今回採取したうちの10—20種は新種の可能性が高い。手つかずだった深海の調査が進めば、種の数は大幅に増えそうだ。

動物プランクトンは魚類やクジラの餌となつて海の中にいっても、クラゲ類、貝の仲間、甲殻類の幼生など多くの生物種があり、姿かたちは実に多彩だ。既知の多細胞動物プランクトンは7000種程度だが、今回採取したうちの10—20種は新種の可能性が高い。手つかずだった深海の調査が進めば、種の数は大幅に増えそうだ。

西田教授らは来年以降、未知の部分の大きい東南アジア海域で調査を計画している。「この海域は深海部が隔絶されている。仕切られた海が多く、世界的にも生物多様性が高い。ユニークな種がたくさん見つかるはず」と話している。



バテイクラゲの群体の一部分で泳ぐための器官。口状の部分から海水を噴き出し推進力にする



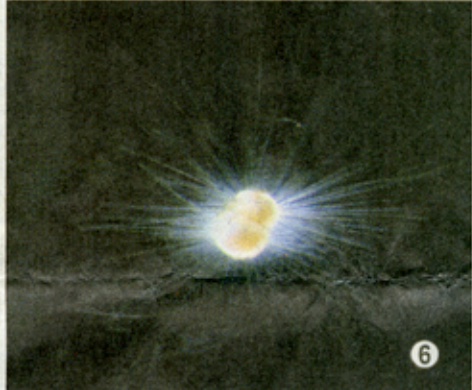
ウキヒシガイ属の一種。薄くて透明な殻を持っている(ひし形の部分)



深海カイアシ類(ケンミジンコ)の仲間(一種)



イソギンチャクの仲間の子供。生まれてしばらくは海に浮かんで生活する



有孔虫類(サキュリファ属)の一種。放射状のびた細長い足で餌を捉える

## IT エクスプレス

年賀状ソフトや画像処理ソフト、ワープロソフトなどをパソコンにインストールすると、何百種類ものフォント(文字の書体)が付

## 無駄なフ

にもよるが、ある実験ではフォントが20種類増えると起動時間が1秒のびるという結果も出ている。フォントの中には、まず使わないと思われるものも数多いはず。こういった無駄なフォントはさっさと削除し、起動時間を短縮しよう。